

MUSASHINO^{Vol.101} *for* TOMORROW

巻 頭

ドビュッシーに見る
確固たる美意識

真嶋雄大

卒業生インタビュー

刺激的な毎日、充実のレッスン

～新国立劇場オペラ研修所に学ぶ日々～

林よう子 日浦真矩

表紙：三ッ石潤司(ピアノコラボレイティブアーツ)

April 2012
vol.101

平成24年度を迎えて

武蔵野音楽大学学長 同附属高等学校校長 福井直敬



酷しかった冬が去り、再び春の息吹が感ぜられるようになりました。昨年3月11日、大震災が発生し、平成22年度の卒業式など学年末、学年初頭の学事を一部中止せざるを得ませんでしたが、本年は明るく希望に満ちた新年度を迎えられますことを、とりわけ嬉しく思う次第です。

しかし、社会の流れを見ると、内外ともに経済情勢、政情が不透明で、しかも、わが国では少子高齢化、総人口の減少が進む中、この度の大震災の影響もあって、私学を取り巻く環境は一層厳しくなっております。

このような状況下ではありますが、本学では平成16年以来、博士後期課程、音楽学部ヴィルトゥオーソ学科及び音楽環境運営学科、修士課程ヴィルトゥオーソコースを次々と設置し、昨年4月には、生涯学習に焦点

を当てた大学別科を開設して、教育研究組織の整備、拡充を行ってまいりました。それぞれ開設してから間が無いので改善の余地は残されておりますが、教育成果が逐次現れており、目下、内容の一層の向上に鋭意取り組んでいるところであります。

一方、戦後の音大の施設としては画期的であった江古田キャンパスの校舎は、すでに築後半世紀が経過し老朽化が目立ってきました。その後、入間キャンパスを開発し、双方で教学運営を続けてまいりましたが、事務組織や図書館などの諸施設を二重に設置するための出費の高騰、二カ所で授業を行う教職員と学生の負担、入間キャンパスのロケーションなどは、運営上現在では決して合理的とは申せません。

このような条件を一挙に解決し、

教育研究内容と施設設備の両面から飛躍的な発展を目指す“江古田新キャンパスプロジェクト”を、この度スタートいたしました。この計画が実現の暁には、西武線江古田駅から至近距離の閑静な住宅街に、最新の施設設備を誇る音楽教育の殿堂が出現するものと期待されます。

さて本年は、学生・生徒諸君に、4月末から開催するオペラ公演を皮切りに、国内外での演奏旅行など一層多彩な演奏、発表の機会を提供したいと計画しております。学生・生徒たちが素晴らしい音楽を体験し、満ち足りた学修生活を送るならば、それは私たち自身にとっても大きな喜びであります。皆様の変わらぬご鞭撻、ご支援をお願い申し上げます。



▲ 武蔵野音楽大学江古田キャンパス

ドビュッシーに見る 確固たる美意識

真嶋雄大

音楽評論家

19世紀後半から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの作曲家 クロード・ドビュッシー。印象主義音楽の代表とされる彼は、伝統にとらわれず独自の自由なスタイルで作品を生み出しつづけた革新の人でした。メモリアル・イヤーを受けて、音楽雑誌やNHK-FM 等でおなじみの音楽評論家真嶋雄大さんが、その創作の源泉をめぐる一文を寄せてくださいました。

たブリジストン美術館がプランニングする「ドビュッシー 音楽と美術 (仮題)」という展覧会も大変興味深い。これはフランス近代絵画のコレクションで知られる同美術館が、創立60周年記念事業の一環としてオルセー美術館やオランジュリー美術館などと共同開催する国際美術展で、マネやモネの作品ほか、ドビュッシーの写真や自筆譜など貴重な資料まで展示される垂涎の企画である。

それではドビュッシーの音楽的特徴とは何か。端的に記せば、機能と声からの逸脱と、全音音階など独自の語法による旋法を駆使した作曲技法であろう。楽曲からは、それまでにはなかった多彩な音色や色彩感、馥郁^{ふくいく}と立ち昇る芳香、清冽にして茫洋たる空気感、官能的な触感、細密な情景描写、響きの透明感、印象派の絵画や象徴派の文学からの影響等々のキーワードが浮かぶ。これらは確かにドビュッシーを標榜^{ひょうぼう}する大切な

大作曲家たちの革新性

2012年は、ドビュッシー生誕150年にあたる。2010年のショパン・シューマン、2011年のリストに続く大作曲家のメモリアル・イヤーだけに、在京オーケストラのコンサートをはじめ、11月のピアニスト ピエール＝ロラン・エマールによる「ル・プロジェ・エマール」など著名演奏家の室内楽やリサイタルが目白押しである。ま

真嶋雄大 Yudai Majima

音楽評論家。5歳からピアノを、中学から作曲を学ぶ。1973年に《ソプラノと和洋合奏のための変容》を発表、自ら指揮して注目された。'91年より評論活動を開始、「音楽の友」誌など媒体各誌、NHK交響楽団等演奏会等プログラムの曲目解説、CDのライナーノート等執筆活動を続ける他、NHK-FM「サンデークラシックワイド」、「NHK交響楽団生演奏会」等に案内役で出演、また各種コンクールの審査員、朝日カルチャーセンター新宿等の講師も務めている。著書に「ピアニストの系譜(音楽之友社)」、「須川展也(せきれい社)」、監修に「ピアノとピアニスト2008(音楽之友社)」。

今夏にPHP新書より書き下ろしを上梓予定。「真嶋雄大の面白クラシック講座」主宰。



▲ 本学入間キャンパス

ファクターではあるし、それなくしてドビュッシー音楽は成立しない。しかしながらより重要なのは、ドビュッシーという芸術家の持つ類稀な革新性である。

そもそも音楽史を紐解けば、ドビュッシーならずとも大作曲家の出現と革新性とは密接な関連性を持っている。大作曲家と呼ばれる芸術家たちは例外なく、それまでの伝統を踏襲しながら習作を重ね、やがてそれを否定、或いは凌駕することによって新しい地平を切り拓いていった。ハイドン然り、モーツァルト然り、ベートーヴェン然り。それは古典派であっても、その時代にあっては突出してラジカルな前衛だったのである。

ロマン派から近代へ

音楽史が古典派からロマン派に移行し、その主情的なロマン主義音楽にも翳りが見え始めてきたのは、そろそろ20世紀が間近となった1880年代である。いち早く、調性に疑問を呈

したのはリストであった。リスト晩年の作品には、宗教的な静謐さと調性が明瞭ではないある種の不安定さが湛えられているが、1885年に「調性のないバガテル」を書いて、調性からの乖離を明確に示した。そしてリストは翌年1月、在フランス・アカデミーの本拠であるヴィラ・メディチを訪ねた。そこに滞在していたのは、ローマ大賞を得て、留学していたドビュッシーその人だったのである。ドビュッシーは友人ヴィダルとともに、リストの「ファウスト交響曲」を2台ピアノで老匠のために演奏、リストは「泉のほとりで」などを演奏してそれに応えた。この歴史的な邂逅は、時がロマン派から近代へと様変わりしていく象徴的なエピソードでもある。

その直後、ドビュッシーは「オーケストラとピアノ連弾と合唱のための交響的組曲《春》」を作曲する。これはローマ留学の課題として学士院へ送付する作品であったが、当時一緒に留学していた画家バシエの作品にインスピレーションを得て作曲されたもので、そのバシエも画家ヴォッティチェッリの有名な絵画「春」に啓発されたのだという。ドビュッシーはこの作品で、「春」という言葉に含まれる再生の観念と喜びを表現しようとしたため、オーケストラには演奏しにくい嬰へ長調という調性を用いた。それは色彩感や光を音楽で精緻に描写しようとしたためでもあるが、保守的な学士院によってドビュッシーは、「芸術作品としてもっとも危険である曖昧な印象主義者」のレッテルを貼られてしまったのである。

しかし、斬新な試みは今に始まったことではなかった。ローマ大賞を受賞するより前、パリ音楽院でドリーブの作曲クラスに在籍していたドビュッシーは、教師の不在を狙って当時の和声法では決して許されなかった平行和音を駆使した即興演奏



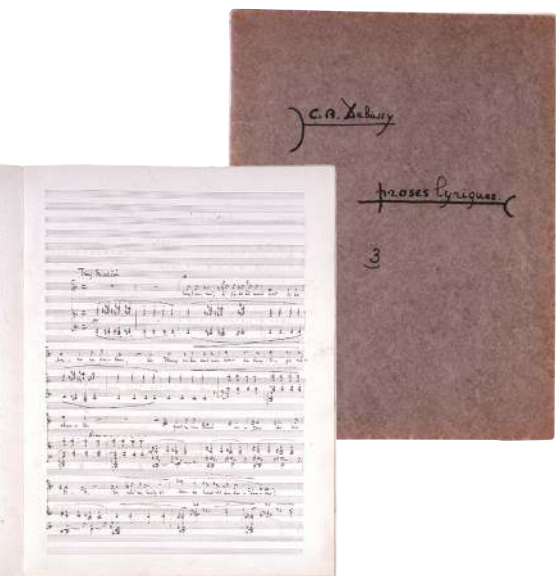
▲室内合唱団演奏会
(2011年9月29日／ベートーヴェンホール)

を行い、学友たちに衝撃を与えた。ドビュッシーの言によれば、「音符を書くたびに国の検察官に追い回された」のであり、一方で「今日の不協和音は明日の協和音」と語って憚らなかった。

では、このドビュッシーの矜持はどこから来たものなのか。確かにドビュッシーは幼い頃から旺盛な反骨精神の持ち主だったようだが、独自の音楽的方向性を模索していく中で、拠り所となったものは容易に想像できる。それはドビュッシーの持つ強烈な美意識に他ならない。ドビュッシーの根底に、どんな障害があっても決して屈することのないアイデンティティがあるからこそ、ドビュッシーは自らの創作に自信を持って対峙することができた。そのアイデンティティを確立する原動力こそが、美意識なのである。それは審美眼と置き換えてもいい。美意識については他の作曲家たちはもちろん、およそ芸術家であれば百人が百人ともに持ち合せているものなのだろう。各々その質や方向性は異なるとしても…。

ドビュッシーの音楽

それでは美意識とは何か。その前に美とは何か。漢和辞典によると、「美」という文字は羊と大から構成されており、「び」という音は「肥」か



▲ドビュッシーの自筆楽譜／自作詩「叙情的散文 No.1 夢-No.2 砂浜-No.3 花-No.4 夕暮れ」の第3番「花」自筆楽譜。1892～93年作曲。
(武蔵野音楽大学図書館 稀観図書室蔵)

らきている。即ち太った羊の意であり、それが美しいとされ、転じて人情、風俗、才徳などがすぐれて良いことに用いられた。

有史以来、人は美と向かい合ってきた。その対象は風景や風がわたる音、人や動植物の容姿など自然界の創造物から、音楽や美術、哲学や科学、建築物など人類の創作に至るまで、計り知れないほど多岐に及んでいる。

また美という観念は普遍である。しかしながら厄介なのは、美に対する人の感覚、つまりは美意識の相違である。人が美しいと感じるのはあくまで主観であり、厳然たる基準が存在する訳ではない。例えばシンメトリーのように整然とした枠組みに美を感じる人がいる一方、ランダムな方向性を好む人もいる。音楽であれば、ソナタ形式などの均整美に魅力を見出すか、或いは印象派の音楽のように自由な風趣^{ふうしゅ}に身を委ねるかであるが、双方を受け入れるケースもままある。

その両端が調和しているのがドビュッシーの音楽なのである。伝統的保守性と先取的な革新性、言い換えれば、脈を打つような精確なリズムに根差しながらグラデーションのように色彩が変容していく展開であり、まさに新しい時代の幕開けに相応しかった。

「美」に関連する言葉で、物事を良いと思うことは「好」、若やいで美しいことは「姣」、詳しく美しいのは「妙」、艶めかしく美しい「妖」、麗しく美しい「嬌」、顔が美しい「姤」、しおらしく美しい「娟」、そして美人を表す「姚」等々、挙げればキリはないが、みな部首は「女偏」である。女性への憧憬や賛美がこうした文字にも表されたのであろうが、翻れば男性優先の封建社会による産物なのかもしれない。

ドビュッシーも女性に対しては幾



▲ドビュッシーと二番目の妻・エンマ

つものエピソードを残している。18歳の時から弁護士の人妻と8年間交際し、その間に何人もの女性と関係を持ち、その後同棲していたギャビーはドビュッシーの浮気が原因で自殺未遂。やがてリリーと結婚するも、後年再婚するエンマ・バルダックと不倫関係に陥り、リリーも自殺未遂。スキャンダル連続であり、明らかに常軌を逸していると思うが、これがドビュッシーの女性に対する美意識と関連するのかどうかは何とも判断しかねるところ。

表現と美意識

些^{いさ}か話が側面的な方向に行ってしまったが、とにかく武蔵野音大の皆さんには「自分なりの美意識を持っていただきたい」ということである。美意識こそ、人が現在に至る人格形成を経て総体的に表出する感性の発露であり、それまでの半生に至るすべての概念や表徴が、そこに凝縮する。さらにそれは絶対不変の感覚ではなく、環境や状況によって縷々として変容するものであり、それが生

涯一定していることは、おそらくあり得ない。

どんな仕事をしていようが、どんな環境にあらうが、例外なく人は表現者である。規模や方向性が異なることはあっても、その人の意識外にあらうとも、表現することなくして人としての営みは成立しない。それが動植物との相違だろうが、否、拙宅のミニチュア・ダックスにおいてさえ、喜怒哀楽を露わにし、感情の推移とともに表現者となり得るのだ。だからこそ美意識はもっとも重要な根幹であり、美意識の質やベクトルによって表現はおろか、人生までが大きく変わってくるのである。

筆者は、音楽評論を生業としてい



▲入間キャンパス

る。19世紀や20世紀初頭であれば、作曲家による新作も批評対象にはなったのであろうが、現在は演奏批評、つまりは平行比較が主となっている。その批評に臨む際、何を尺度とするか。それこそが、自らの美意識、審美眼なのである。自分自身が信じる美意識なくして、他人様を批評することなどではしない。それは個人的な演奏の嗜好とはまったく懸け離れたものである。無論、筆者にも好き嫌いはある。けれどもそれを判断の縄墨にする訳にはいかない。

先日、ある例に出会った。巨匠と目されている指揮者による交響曲演奏であったが、ある批評家によるとテンポが「違う」のだという。「違う」ということはどういうことだろうか？ 巨匠はすでにその作品を何十回、何百回と指揮し、舞台に乗せている。単にルーティン・ワークであろうはずも

なく、常に一期一会、新しい発見と新しい解釈を希求しながら演奏会に臨んでいることであろう。こういう状況や演奏者の資質、その時点での楽曲へのアプローチや解釈を総て俯瞰した上での「違う」であれば、それでもいいのかもしれない。

けれどもそうでなかったら「違う」という文言は違う。「違う」という根拠が、もし批評者の“好きなテンポ”であったり、批評者の“愛好する指揮者のテンポ”であったり、“一般に演奏されているテンポ”などであった場合は、それこそその批評は本質を外していると言わざるを得ない。批評の原点とは批判ではない。演奏者がどんな解釈で何を語ろうかとしているかを全身全霊で推し量り、それがどれほど音楽の感興に結び付いているかを伝えることなのである。

その時自分自身の座標軸となるの

は、美意識以外の何ものでもない。

* * * * *

この「MUSASHINO FOR TOMORROW」は、前号で大きな区切りとなる100号を迎え、新たなスタートを切った。創刊は1987年4月だとお伺いしているの、ちょうど四半世紀という長きにわたる。その間連綿と発行された誌面を何号か拝読させていただいたが、ここにも制作者や関係者の皆さんのまごうかたなき美意識が宿っている。伝統を大切にしながら絶えず革新を求めていく気概に溢れている。昨年は大震災による影響で、音楽界も大きな打撃を受けた。けれども音楽を純粋に学ぶ若い皆さんが、自らの美意識と審美眼を養い、個性を伸張り、誇りある人生を歩んでいく限り、音楽は未来永劫発展し続けるに違いない。

音楽の万華鏡 19

歌う民族 日本人

日本人は古来歌う民族であったといってもよい。音楽を声楽と器楽に分けるのであれば、日本の伝統音楽種目のほとんどは声楽になる。ちなみに手元の漢和辞典で「うた」という字を探してみると、唄、唱、歌、謡が出てくるし、「うたう」という動詞になると、さらに吟、詠、哥、欧、謳、といった漢字が出てくる。このほかに、詠、謳、謳、詩などもある。日本人は「うたう」ことにこだわり、うたの種類や声の表現などに応じてこうした文字を使い分けてきた。

「うた」「うたう」の語源については、諸説ある。小学館の日本国語大辞典(第2版)によれば、うたうときは手拍子を打つことが常なので、「打ち合フ」が語源であるという説(大島正健、新村出)、「訴フ」が起源であるという説(折口信夫、高崎正秀)、ウーイタイヒ(唸痛言)が語源である

という説(林甕臣)等々。そのなかで、靖国神社の宮司をつとめた加茂百樹(かももき)は、折口らの説と同じ「訴」を語源と考えていて、「心情を声に挙げ、言にのべてウタヘ(訴)出ること」としている。歌は生身の人間の声を用いることを考えると、この説明はなかなか魅力的である。

写真は、現在、東京国立博物館の「日本の考古・特別展(平成館)にて展示中の埴輪「踊る人々」である。「踊る男女」とも呼ばれ、美豆良を結った小さいほうの埴輪が男性である。踊りながら口を大きく開けて、何か歌っている。出土の状況から葬送の際の歌舞かとも言われている。

古代日本には歌垣という風習が広く行われていた。これは、春や秋に、特定の山や浜などに男女が集まって、互いに歌を掛け合いながら相手を見つけて交わる行事である。歌垣の結果多くの子供を授かれば、その年は豊作豊漁になると考えられていて、いわば呪術的な意味を持った豊作豊漁の予祝行事だったという。

古代においては、歌うことは特殊なことではなく、誰もが、話をするのと同じように歌も歌い、そこにさまざまな思いを



▲ 埴輪 踊る人々
埼玉県熊谷市野原字宮脇 野原古墳出土 6世紀
画像提供: 東京国立博物館

込めていたのではないだろうか。

「うた」という漢字の多さ、「うた」の種目の多さ、歌う埴輪、歌垣の風習。いまやカラオケは普通に日本人の生活に溶け込んでいるが、歌う日本民族の起源は古い。

薦田治子(本学音楽学教授)

卒業生インタビュー

刺激的な毎日、充実のレッスン

～新国立劇場オペラ研修所に学ぶ日々～

● 林よう子 (ソプラノ) ● 日浦真矩 (テノール) ●

日本初の劇場付き研修機関として、1998年に誕生した新国立劇場オペラ研修所。世界に通用するプロフェッ



林よう子 Yoko Hayashi

(在学時、倉田容子) 群馬県出身。私立共愛学園高校卒業。2003年 武蔵野音楽大学卒業、'05年同大学大学院修士課程修了、同大学卒業演奏会出演。'04年度福井直秋記念奨学生。二期会オペラ研修所第54期マスタークラス修了、修了時に優秀賞受賞。'11年3月には初のソロリサイタルを開催。第7回全国「叱られて」歌唱コンクールサンアゼリア賞。第58回全日本学生音楽コンクール東京大会大学・一般の部入選。第4回チェコ音楽コンクール第2位、第3回ソプラノ・ベルカント・コンクール第3位。群馬オペラ協会「フィガロの結婚」の伯爵夫人役でオペラデビュー。鎌田真美、永尾和子(高柳和子)、長町順史、エレナ・オブラストワの各氏に師事。現在、新国立劇場オペラ研修所第14期在籍。

ショナルなオペラ歌手の育成を目指し、国内外の一流講師陣の指導のもと、充実したレッスン、授業が行われています。合格者は毎年わずか5名という狭き門を突破した研修生たち。現在、その第14期生として日々学んでいるのが、武蔵野出身の林よう子さんと日浦真矩さんのお二人。3年の研修期間の1年目をほぼ終え、年度末の研修公演前の忙しいなか、お話をうかがいました。

(2012年2月1日取材、文責編集部)

学生時代から憧れの場

—— 研修生になろうと思った動機をお聞かせください。

林 研修所を受けるのは大学院を出てすぐの人が多く、平均26、7才くらい。それに比べると私は少し年上ですが、大学院を出たあといろいろな経験をするなかで自分に足りないものがはっきり見えてきて、今の自分ならオペラに関して学んだことが身に付く状態にあると判断して受験を決めました。ここは学生時代から憧れの場。当時はまさか自分が入れるとは思ってもみなかったですね。

日浦 大学生の早い時期からこの研修所の公演を見る機会が度々あり、こんな素敵な所で学べたら幸せだなと漠然と思っていました。大学院に進み、将来を考えるなかで、演奏家としての道を歩んでいくならやはり新国立劇場の研修所で学びたいという思いを強くするようになりました。

林 素晴らしい設備の劇場付きの研修所ということ、世界的に名の通ったオペラ研修所や劇場からいらっしゃった先生方に指導を受けられるということも、もちろん魅力でしたね。

—— 試験内容は？ またどのような準備を？

日浦 私たちが受けた年は約20倍の倍率で、試験内容は歌唱と面接でした。準備と言っても、やはり歌次第ですから、日々の練習、レッスンに励むということだけでしたね。

林 4日間のうちに3次試験まであったので、何より体調管理に気を付けました。

—— 研修生としての日々のスケジュールは？

林 月曜日から金曜日まで、朝10時から午後6時までが研修時間。午後は基本的に個人レッスンで、それが終われば個人練習をしたり、宿題をしたりしています。

日浦 レッスンが早めに終わっても控え室に集まって、研修生同士でオペラについてディスカッションしたり、5時、6時まで一緒に過ごすことが多いですね。

実り多き研修所の日々

—— 研修所でのカリキュラムの特色は。

林 私にとっては初めてとなるコレベティツォアの先生の授業は、とてもためになります。一流の先生だけ



撮影：小林由恵

撮影:小林由恵



▲ オペラ試演会「ルイザ・ミラー」での林さん(2011年7月)

にどんなことでも受けとめてくれ、何でも教えてください。

日浦 私は武蔵野のオペラコースで何度かコレペティの先生から指導を受けました。でも45分間、みっちりコレペティの先生だけのレッスンを受けるという経験は初めてのことで非常に新鮮でした。

林 健康管理に関する「ボディ・コンディショニング」、花柳流の先生から指導を受ける「日舞」、他にも「社交ダンス」やオペラの基礎である仮面劇「コメディ・デラルテ」など幅広く教えていただいています。

—— 海外からいらしている先生が多いようですが。

林 皆さん母国でも第一線にいる方

ばかりなので、向こうのオーディション状況や、いまどんな声が受けているのか、こういう曲を学ぶべきだ、そういった海外の音楽事情をリアルタイムで聞けることは貴重ですね。

日浦 授業だけでなくプライベートな時間も研修生と交流をもってください先生がいらして、一緒に

食事などをしながらさまざまなお話をうかがっています。

—— 本誌が出る前に終わっていますが、3月には研修公演があります。

日浦 ラヴェルの「スペインの時」とツェムリンスキーの「フィレンツェの悲劇」の2本立てです。二人とも両方の舞台に立ちますが、私は後者が主で、フィレンツェの大公の息子という役所。冷徹な人物ですので、実際の自分とはギャップがあり、役づくりに苦労しています。

林 2本ともあまり日本では上演されない演目ですし、フランス語とドイツ語という普段歌い慣れていない言語だったりするので、かなり前から楽譜をいただいて勉強してきました。言語指導からコレペティ稽古、いま指揮者稽古に入っていて、来週から立ち稽古が始まるところです。

—— 研修生になって良かったことを挙げてください。

林 毎月、奨学金をいただけていることは大きいですね。私はそれ以前、働きながら音楽をしていましたので、音楽だけに専念できる今の環境は本当にありがたいですね。

日浦 研修生の身分で日本一と言っても過言ではないリハーサル室が使えたり、新国立劇場の中劇場という

素晴らしいステージで歌えるということは、本当にありがたいことです。また劇場と一体になった研修所ということで、生の現場に触れる機会が多いのも魅力です。

林 ゲネプロから見せてもらえますし、許可が出れば稽古場に入ることできます。あと、新国立劇場にはオペラ研修所の他にバレエ研修所、演劇研修所があり、それぞれ交流があるのも特徴です。

日浦 たとえばオペラ研修所の公演に演劇の研修生が演技のみで登場したり、バレエ研修所の公演にオペラ研修所の研修生が合唱で参加したり。違うジャンルの方たちと同じ舞台に立つことは、学ぶことも多くとても勉強になります。

忘れがたき武蔵野時代

—— 武蔵野での勉強、経験がいま現在どのように役立っていますか。

日浦 大学3年のときにオペラコースに進み、そこで初めてオペラの魅力にふれました。2009年、大学のオペラ公演《コジ・ファン・トゥッテ》で、衣裳付き、オーケストラ付きで全幕の舞台に立つことができたことは、その後を決める何よりも大きな経験となりました。そして、大学入学から大学院までの6年間、毎週レッスンを受けさせていただいた菊池英美先生なしでは私の歌のキャリアを語る



撮影:小林由恵



▲ オペラ試演会「愛の妙薬」での日浦さん(2011年7月)

ことはできません。先生には今でも機会あるごとに指導を仰ぎ、声を見ていただいています。

林 私もオペラコースに1年だけ在籍して、そこで本当のオペラにふれて衝撃を受けました。当時は自分の未熟さ、至らなさばかり感じていたのですが、今となっては良い経験だったと感じています。

—— 武蔵野時代で思い出すことは？

林 外国の方で初めて指導を受けたのが、エレナ・オブラスツォワ先生でした。すごいオーラ、すごい存在感、でもとてもチャーミングで素敵な先生でした。指導を受けた際に、歌い方の提案が際限なく出てきて、経験の豊富さに圧倒されました。先生の言葉で忘れられないのは、「あなたの声を池袋まで飛ばしなさい!」。ジョークまじりの楽しいレッスンでした。

日浦 武蔵野の校風というのでしょうか、先生、学生を問わず本当に思いやりにあふれた人が多く、音楽の技術ばかりでなく、人間形成の面でも育てていただいたと感謝しています。

人の心にとどく歌を

—— お二人と同じ道を目指している

後輩たちに一言お願いします。

日浦 武蔵野は、やる気のある学生にたくさんのチャンスを与えてくれます。私自身、オペラ公演や定期公演など学内のさまざまなオーディションに挑戦しました。失敗したこともあります。たどるものは大きく、自分を成長させてくれたと思っています。後輩の皆さんもぜひ積極的に、何事にもチャレンジして欲しいと思います。

林 私が今の年齢で研修生になれたのも、諦めずに続けてきたからではないでしょうか。何事も諦めないことが大切です。あと、自分自身の反省も含めて、学生時代から語学をきちんと習得すべきだと思います。いま語学の大切さを痛切に感じています。少しずつでもいいですから、毎日継続して学び続けることをお勧めします。

—— 最後に、お二人の今後の抱負をお聞かせください。

日浦 私が歌を始めたきっかけは、中学生の頃、辛い思いをしていた時に劇団四季のミュージカル《キャッツ》を見たこと。ああ、こんな世界があるんだと勇気づけられ、感動したのが原点なんです。そして歌の道へ進もうと決めました。あの時の私を感じたのと同じように、聴いている方に感動や夢を与えられる歌手になりたいと思っています。

林 せっかく新国立劇場という特別な場所にいるのですから、素晴らしい先輩たちをお手本に得られるものは全て得てやろうという気持ちで、残り2年の研修生活をおくりたいと



思います。そして、いつか武蔵野や新国立劇場のオペラの舞台にメインキャストとして立てたらいいですね。昨年の大震災以後、音楽の力のすごさを改めて感じました。どのような状況でも、どのような時でも、人の心にひびく歌、人の心にとどく歌を歌えるような歌手を目指したいと思っています。



日浦真矩 Maku Hiura

佐賀県出身。福岡県立博多青松高等学校卒業。2008年 武蔵野音楽大学卒業、'10年 同大学大学院修士課程修了。二期会オペラ研修所第54期マスタークラス修了、修了時に優秀賞、並びに奨励賞受賞。武蔵野音楽大学卒業演奏会および第78回読売新聞社主催新人演奏会、第87回二期会オペラ研修所コンサート等に出演。武蔵野音楽大学オペラ公演《コジ・ファン・トゥッテ》にフェランド役で出演。第63回全日本学生音楽コンクール東京大会第3位、同全国大会入選。大塚恭子、菊池英美の両氏に師事。現在、新国立劇場オペラ研修所第14期在籍。

研修生自らが日常を綴る！
新国立劇場オペラ研修所BLOG
<http://shinkoku.xsrv.jp/wpevent/>



武蔵野音楽大学別科に学んで

音楽への強い学習意欲を持つ、さまざまな経歴や年齢の人たちに学びの場を提供する目的で、平成23年度に開設された武蔵野音楽大学別科。第一期生となる18歳から63歳までの78名の方々が、この3月、無事1年間の履修を終えました。3名の修了生の方々に在学中の感想を伺ってみました。



より専門的に音楽を学ぶために 布施芳之さん

私は新潟大学を卒業後、整った環境でより専門的に音楽を勉強したいと思い、武蔵野音楽大学別科を受験しました。別科では週1回のレッスンと授業日である土曜日以外の活動は個人に任せられており、各々の目的に応じた一年を

過ごせると思います。

私は大学院進学を希望していたので、それに向けた勉強や練習にも落ちついてしっかりと取り組み、さらに学内外を問わず積極的に演奏会に足を運ぶこともできました。また、別科には様々な境遇の幅広い年齢層の人たちが所属していることも魅力です。志同じく研鑽に励む仲間の姿

に刺激を受け、充実した一年を送れました。この春、武蔵野音楽大学大学院への入学が叶いました。大学院でも前向きに技術を磨き、いろいろな経験を積み、人間的にも成長していきたいと思います。

(新潟大学教育人間科学部芸術環境創造課程音楽表現コース卒業)



久しぶりに満喫した有意義な学生生活 相良知佐さん

歌を始めたきっかけは、仕事以外にも何か新しいことに一から挑戦したいということでした。始めてみて歌や音楽の奥深さを知り、もっと学びたいと思っていました。別科が新設されると知り、私は弁護士をしています、

別科のカリキュラムは仕事と両立可能なので非常に魅力的でした。私と同じように、仕事や家庭と並行して音楽を学びたいという意欲を持った社会人の方々も多いと思います。

別科では「門下」のプレ会(試験前の試演会)に学部生と一緒に参加したり、卒業生や他の科の方にもネットワークが広がったりと新鮮で有意義

な久々の学生生活を過ごすことができました。1年で修了してしまうのが名残惜しいです。学部生の授業の聴講や語学等がカリキュラムに加わって、2年次別科が新設されたらと贅沢なことを思っていますね。

(一橋大学社会学部卒業、伊藤見富法律事務所 弁護士(第一東京弁護士会所属))



専攻や年齢を越えて受けた刺激 宇高陽子さん

2011年度からの別科の再開を知り、社会生活と両立できそうなカリキュラムだったこともあり入学を志望しました。私の場合は金曜日の午後が実技レッスン、土曜日の午前が学科授業でしたので、それまでの生活スタイルと無理なく

両立することができました。

別科にはいろいろな世代の人が、それぞれの目的意識を持って通学しています。特に学科授業では、専攻や年齢の垣根を越えて様々な方と接することができます。私にとってそれはとても新鮮な経験で、多くの刺激を受けました。また、私は別科に進学したことにより大学院に進学し

ようという意識が生まれ、おかげさまで来年度は武蔵野の大学院に進学する運びとなりました。別科でのレッスンや授業で学んだことは、大学院入試に大きく役立ちました。これから精進するに当たっても、大切な糧になるであろうと思っています。

(武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科声楽専攻卒業)

音楽教室オペラ「ヘンゼルとグレーテル」上演

武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室のオペラ公演が、新春の1月14日、15日の両日、ベートーヴェンホールにおいて開催されました。子どもによるオペラとして広く知られるこの



公演は、キャスト、合唱はもちろんオーケストラや練習ピアニストなどを、小学生から高校生までの生徒たちが務めるユニークな催しとして、各方面から高い評価を得てきました。

20回目を迎えた今回は、「ヘンゼルとグレーテル」を4回にわたり上演。本学の卒業生でオペラ界の重鎮、大谷洸子女史の演出、本学准教授 前田淳氏の指揮、子どもの指導に経験豊かなスタッフの指導のもと、清新なメルヘンの世界を生き生きと歌い演じた生徒たちの熱演は大きな感動を呼び起こし、満員の会場から出演者たちへ盛大な拍手と声援が送られました。

子どもたち一人ひとりにとって、オペラという総合芸術を通して相手を思いやる素直な心、仲間との連帯感や責任感を身につける、かけがえない体験になりました。



タチアナ・ゼリクマン教授来学

モスクワのグネーシン音楽院教授で、門弟の中からチャイコフスキーコンクールやショパンコンクールの高位入賞者を続々と輩出しているこ



とで世界的な注目を集めているピアノのタチアナ・ゼリクマン教授が、1月初旬、初めて本学に着任しました。

ゼリクマン教授の「将来ある若い子どもたちの手助けをしたい」という要望に応じて、附属音楽教室の生徒から12名、また附属高校と大学からも若干名が選抜され、3週間にわたるレッスンが開講されました。高名な教授ということで、特に小さな受講生たちは最初は緊張気味。しかしレッスンが進むにつれ、教授の音楽に対する情熱と子どもにもわかりやすい言葉での問いかけにより、すっかりレッスンに溶けこみタッチの質がみるみる変化しました。



1月27日にはモーツァルトホールで公開講座も開催され、教授の決して響きに妥協しない姿勢や生徒の能力を引き出す巧みな指示に、つめかけた多くの聴衆は時間を忘れて引き込まれていました。



第17回武蔵野音楽大学 インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ

プロの音楽家、音楽教育に携わることを目指す方に、専攻実技を磨く絶好の場を提供する「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」。本年も豪華教授陣を招いて、以下の日程・内容で開催します。

【開講期間・会場】

平成24年7月19日(木)～29日(日)
武蔵野音楽大学・江古田キャンパス

【開設講座及び講師】

●ピアノ=A.フォン・アルニム、L.ナトチェニー、J.ブラッツ、A.セメツキー ●ピアノ・デュオ=A.セメツキー
●ヴァイオリン／弦楽クワルテット=U.ヘルシャー
●フルート=M.ファウスト ●声楽=M.グリエルミ、S.シャシュ

【募集人数・応募資格】

1講座につき12名。弦楽クワルテットはグループで受け付けます。専門的教育を受けている方。国籍不問。ただし声楽は20歳から50歳まで。

【受講時間】

ピアノ、ピアノ・デュオ、ヴァイオリン、弦楽クワルテット＝1回90分で3回。フルート、声楽＝1回60分で4回（講師により当該時間を変則的に組替える場合があります）

【受講料】

1人100,000円、ピアノ・デュオは1人60,000円、弦楽クワルテットは1人30,000円（レッスン料、演奏会・音楽セミナー入場料、懇談会費等を含む）

【演奏会等】

ピアノ講師によるリサイタル、ピアノ音楽セミナー ※詳しくはP14を参照

【お問合せ・要項請求】

要項は、4月に発行。武蔵野音楽大学演奏部 TEL.03-3992-1120 へ募集要項をご請求ください（要項は無料、送料は大学が負担します）。また、ホームページ、モバイルサイトからもお申し込みできます。（アドレスは裏表紙参照）

※講師の病気、その他やむを得ない事情により、一部内容を変更する場合がありますので、予めご了承ください。



A.フォン・アルニム



L.ナトチェニー



J.ブラッツ



A.セメツキー



U.ヘルシャー



M.ファウスト



M.グリエルミ



S.シャシュ

「江古田新キャンパスプロジェクト」に伴う学生の履修キャンパスについて

武蔵野音楽大学では、ベートーヴェンホールを残し江古田キャンパスの全ての校舎を建て替えるとともに、入間キャンパスで行っている体育実技等一部を除く大学の実験研究活動の場を、平成29年度を目途に江古田キャンパスに統合する「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスプロジェクト」がスタートしました。これに伴い、大学・大学院生の履修キャンパスは次のようになります。

- (1)平成24年度以降における音楽学部（器楽学科、声楽学科、作曲学科、音楽学学科、音楽教育学科、音楽環境運営学科）の履修キャンパスは下表のようになります。
- (2)音楽学部のヴィルトゥオーソ学科および大学院博士前期課程（修士課程）の履修キャンパスにつきましては、平成26年度までが江古田キャンパス、平成27年度と平成28年度は入間キャンパスとなります。
- (3)音楽学部の音楽環境運営学科で平成21年度入学の4年次生、平成22年度入学の3・4年次生、平成23年度入学の3・4年次生は、江古田キャンパスが履修キャンパスになります。
- (4)大学院博士後期課程（博士課程）の履修キャンパスは、原則平成28年度まで入間キャンパスとなりますが、年次ごとの学生数や履修内容により適宜対応します。

※工事期間の関係で一部変更が生じる場合があります。

4年間の履修キャンパス（器楽学科、声楽学科、作曲学科、音楽学学科、音楽教育学科、音楽環境運営学科）

入間

江古田

年度 入学年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成29年度
					江古田キャンパス工事		江古田新キャンパス完成
平成23年度入学者	1年次	2年次	3年次	4年次			
平成24年度入学者		1年次	2年次	3年次	4年次		
平成25年度入学者			1年次	2年次	3年次	4年次	
平成26年度入学者				1年次	2年次	3年次	原則として全学科、全学年の授業を、江古田キャンパスで実施します。但し、体育実技等一部の授業については入間キャンパスで行います。
平成27年度入学者					1年次	2年次	
平成28年度入学者						1年次	

着任外国人教授紹介 (平成24年度前期)



ケマル・ゲキチ *Kemal Gekici* (ピアノ/クロアチア)

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。'81年国際リスト・ピアノコンクールで受賞。'85年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し大好評を博す。幅広いレパートリーでCD録音も積極的に行い、特にリストの演奏では第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。



ヘトヴィヒ・ビルグラム *Hedwig Bilgram* (オルガン・チェンバロ/ドイツ)

ミュンヘン音楽大学卒業。K.リヒターに学んだ。1959年ミュンヘンの国際ARD音楽コンクールのオルガン部門第1位。長年、リヒター指揮のもとミュンヘン・バッハ合唱団、管弦楽団で宗教曲の演奏・録音を、またリヒターによるバッハのチェンバロ協奏曲全集の録音でチェンバロを担当した他、トランペットのM.アンドレとも多数共演。'98年までミュンヘン音楽大学でオルガンとチェンバロの教鞭を執る。ソリスト、室内楽奏者として世界各国で活発な演奏活動を行っている。



エレナ・オブラスツォワ *Elena Obraztsova* (声楽/ロシア)

レニングラード音楽院に学ぶ。チャイコフスキー国際コンクール優勝ほか受賞多数。世界各地の歌劇場で絶賛を浴び、オペラ歌手として不動の地位を獲得、現在も国際的に活躍中。ロシア共和国国家芸術家の称号及びレーニン勲章を授与される。現在、オブラスツォワ国際声楽コンクール総裁、ムソルグスキー記念サンクトペテルブルク国立ミハイロフスキー歌劇場顧問。



リチャード・K. ハンセン

Richard K. Hansen (ウィンドアンサンブル指揮/アメリカ)

ミネソタ大学大学院にて音楽学を専攻、現在はセント・クラウド州立大学のバンドディレクター及び指揮・音楽学の教授を務める。米国はもとより、ヨーロッパ、ロシアなどにゲストコンダクターとして招かれ高い評価を得ている他、国際吹奏楽協会などで活発に論文や著作を発表している。

平成24年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 学校説明会・オープンキャンパス

本学では、武蔵野の教育理念・内容を理解していただくために、音楽大学、附属高等学校音楽科に進学を希望している高校生、中学生、小学生とその指導者、保護者の方々に

対象に武蔵野音楽大学、同附属高等学校の学校説明会・オープンキャンパスを各地で開催しています。平成24年度は下記のとおり開催しますので、ぜひご参加下さい。

日程	会場	申込締切
5月20日㊦	石川県金沢市「金沢歌劇座」	5月 8日㊦
6月 3日㊦	茨城県水戸市「常陽藝文センター」	5月22日㊦
6月 3日㊦	鹿児島県鹿児島市「鹿児島市民文化ホール」	5月22日㊦
6月 3日㊦	広島県広島市「広島音楽高等学校」 ※大学だけの説明会となります	5月22日㊦
6月10日㊦	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス ※大学だけの説明会となります	5月29日㊦
6月17日㊦	兵庫県姫路市「バルナソスホール」 (姫路市立姫路高等学校音楽ホール)	6月 5日㊦
6月17日㊦	神奈川県横浜市 横浜市旭区民文化センター「サンハート」	6月 5日㊦
6月24日㊦	武蔵野音楽大学 入間キャンパス	6月12日㊦
8月25日㊦	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス	8月14日㊦
11月23日㊦	武蔵野音楽大学 入間キャンパス	11月 6日㊦

【説明会の内容】

- 10:00 ~ 16:00 (予定)
- ガイダンス(大学、高等学校別に行います)
- ミニコンサート ● 受験相談(希望者のみ)
- ワンポイント・レッスン(希望者のみ)
- 参加無料(簡単な昼食を用意します)

【お申込み・お問合せ】

武蔵野音楽学園広報企画室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1
TEL.03-3992-1125 FAX.03-3991-7599
※学園ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/>、モバイルサイト <http://musaon.jp/>からもお申し込みができます。

● 表紙の顔



三ッ石潤司さん

三ッ石潤司さんは、2008年10月より武蔵野音楽大学で初めて、あらゆる伴奏法や演奏解釈などを包括したピアノコラボレティブアーツ(総合ピアノ合奏技法)の指導に当たっています。

東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業後、同大学院博士課程(音楽学)を経て、在学中薫陶を受けたアンリエット・ビュイグ＝ロジェ女史の勧めによりウィーン国立音楽大学に留学。声楽伴奏、コレペティツィオンの研鑽を積みました。

'89年からウィーン国立音楽大学講師としてコレペティツィオン、スコアリーディング、ピアノなどを担当し、'95年からは同大学ではアジア人として初めて声楽科専任講師となり、ソロ・コレペティータを務めました。ウィーン国立歌劇場、パリのオペラコミック座を始め、ヨーロッパ各地の劇場や音楽祭でコレペティータとして活動、帰国後もロームミュージックファンデーション主催の指揮セミナー(小澤征爾氏指導)で講師を務めるなど、各地でコレペティータ、伴奏者、作曲家、そしてそれらの指導者として幅広く活動しています。'09年には長年の功績に対してオーストリア共和国より功労金章を受章しました。

今後の主な予定としては、ロームミュージックファンデーションの指揮セミナーの講師を務めていくほか、今年夏には札幌のKitaraオペラ・プロジェクト「コジ・ファン・トゥッテ」、来年秋には日生劇場の開場50周年記念公演「フィデリオ」のコレペティータを務めることになっています。

現在、武蔵野音楽大学教授。東京藝術大学非常勤講師。

編集後記

東日本大震災から早1年。まだ復興への道半ばですが、確実に日常が取り戻されつつあります。当学園でも昨年は中止となった卒業式を始めとする各種行事が滞りなく行われ、普通のことが普通に行われるありがたさを感じずにいられません。新たな年度が始まりました。巻頭原稿で音楽評論家の真嶋さんがお書きになっているように、「独自の美意識」を磨き、自らの人生を着実に歩んでゆきたいものです(編)。



栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●ロシア連邦政府 メドベージェフ大統領より、プーシキン・メダル（ロシアの文化勲章）を授与される （2012年2月17日、モスクワ郊外大統領公邸） 岸本 力（本学講師）

●第8回 日本管弦打楽器ソロ・コンテスト 高校生打楽器部門 金賞、埼玉県知事受賞 古家 啓史（本高校3年次在学マリンバ専攻）●第21回 日本クラシック音楽コンクール 全国大会 弦楽器部門 一般の部（男子）第3位入賞（1、2位なし）原 悠一（平成23年大学卒チェロ専攻）、ピアノ部門 大学の部（男子）第5位入賞（1～3位なし）青木 佑磨（大学4年次在学ピアノ専攻）、ピアノ部門 大学の部（女子）第5位入賞（1～3位なし）橋本 あすか（大学1年次在学ピアノ専攻）、入選 木林 理絵（大学4年次在学ピアノ専攻）、入選 渡邊 茉莉花（大学4年次在学ピアノ専攻）、入選 石井 伶奈（大学3年次在学ピアノ専攻）、ピアノ部門 一般の部（女子）入選 谷地 紗織（平成21年大学卒ピアノ専攻）、打楽器部門 高校の部（女子）第5位入賞 佐々木 麻由穂（附属江古田音楽教室在室 富士見高校2年生）、打楽器部門 中学校の部（女子）入選 横地 ちひろ（附属江古田音楽教室在室 桐蔭学園中学校3年生）、ピアノ部門 高校の部（女子）入選 山口 美果（本高校2年次在学ピアノ専攻）、ピアノ部門 高校の部（男子）入選 山本 己太郎（附属江古田音楽教室在室 埼玉県立草加南高校3年生）、ピアノ部門 中学校の部（女子）入選 石畑 渚（附属江古田音楽教室在室 東京女学館中学校3年生）、入選 平川 笑（附属多摩音楽教室在室 稲城市立稲城第五中学校3年生）、入選 結束 真琴（附属江古田音楽教室在室 大網白里町立大網中学校2年生）、ピアノ部門 小学校低学年の部（女子）入選 今成 彩乃（附属多摩音楽教室在室 聖セシリア小学校1年生）●第60回 南日本音楽コンクール ピアノ部門 大学・一般の部 優秀賞受賞、グランプリ選考会において全国新聞社音楽コンクール上位入賞者演奏会出場権獲得 上蘭 和佳（平成19年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程修了）●第24回 大仙市大曲新人音楽祭コンクール 弦・管・打楽器部門 優秀賞受賞 米倉 森（大学4年次在学クラリネット専攻）●第24回 市川市文化振興財団 新人演奏家コンクール 管・打楽器部門 優秀賞受賞 米倉 森（大学4年次在学クラリネット専攻）●第7回 ルーマニア国際音楽コンクール 打楽器部門 第3位入賞 松澤 美希（大学1年次在学マリンバ専攻 本高校卒）●第17回 KOBE国際音楽コンクール 打楽器B部門 奨励賞受賞 古家 啓史（本高校3年次在学マリンバ専攻）●第28回 “アジア国際音楽コンサート” オーディション 銅賞受賞 相原 里美（大学3年次在学声楽専攻）●第12回 スガミピアノコンクール 音大生・一般部門 銅賞受賞 宮崎 梨咲（平成23年大学卒ピアノ専攻 本高校卒 本大学院修士課程1年次在学）●第3回 東京ピアノコンクール 一般部門 審査員特別賞受賞 川島 大明（平成23年大学卒ピアノ専攻 本大学院修士課程1年次在学）●第2回 ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 全国大会 大学・一般AI部門 ディプロマ賞受賞 南 沙紀（大学3年次在学ピアノ専攻）、未就学児部門 金賞受賞 長谷川 杏海（附属江古田音楽教室在室 おがわ幼稚園在園）●第6回 西関東ピアノ・オーディション Aブロック Special部門 グランプリ、杉並区長賞受賞 谷地 紗織（平成21年大学卒ピアノ専攻）●第9回 北関東ピアノ・オーディション Aブロック Special部門 群馬県教育文化事業団賞、読売新聞社賞受賞 荻野 愛菜（大学3年次在学ピアノ専攻）、Bブロック Special部門 入選 谷地 紗織（平成21年大学卒ピアノ専攻）●第5回 ベーテンピアノコンクール 全国大会 自由曲コース 一般AI部門 入選 谷地 紗織（平成21年大学卒ピアノ専攻）●第47回 国際芸術連盟新人オーディション ピアノ部門 合格 高野 美帆（大学3年次在学ピアノ専攻）●第4回 熊谷ひばりピアノコンクール C部門 銅賞受賞 西澤 輝（附属入間音楽教室在室 星野学園小学校3年生）●第18回 ペトロフピアノコンクール 小学生部門 第4位入賞 波多野 大河（附属多摩音楽教室在室 多摩市立西落合小学校3年生）、審査員賞受賞 山本 向日葵（附属江古田音楽教室在室 明星小学校2年生）●第6回 西関東ジュニア・ピアノコンクール Bブロック ピアノ・ソロ部門 B課程 優秀賞、甲府市教育委員会教育長賞受賞 大久保 領太（附属江古田音楽教室在室 山手学院中学校3年生）、Aブロック ピアノ・ソロ部門 C課程 優秀賞受賞 清水 千夏（附属江古田音楽教室在室 聖徳学園小学校4年生）、ブラジル大使館賞受賞 海老澤 まい（附属江古田音楽教室在室 市川市立鶴指小学校6年生）、ピアノ・ソロ部門 D課程 最優秀賞受賞 今成 彩乃（附属多摩音楽教室在室 聖セシリア小学校1年生）、ピアノ・ソロ部門 E課程 最優秀賞受賞 立石 龍之介（附属江古田音楽教室在室 入間市立藤沢南小学校1年生）●第7回 南関東ジュニア・ピアノコンクール ピアノ・ソロ部門 B課程 優良賞、横浜市長賞受賞 瀬戸口 優里（附属江古田音楽教室在室 慶應義塾湘南藤沢中等部1年生）、ピアノ・ソロ部門 D課程 優秀賞受賞 今成 彩乃（附属多摩音楽教室在室 聖セシリア小学校1年生）●第5回 北信越ジュニア・ピアノコンクール Aブロック ピアノ・ソロ部門 B課程 優良賞、長野市教育委員会教育長賞受賞、Bブロック ピアノ・ソロ部門 B課程 優良賞受賞 大久保 領太（附属江古田音楽教室在室 山手学院中学校3年生）●第11回 北関東ジュニア・ピアノコンクール Bブロック ピアノ・ソロ部門 B課程 アルゼンチン大使館賞受賞 大久保 領太（附属江古田音楽教室在室 山手学院中学校3年生）●第13回 ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会 小学5・6年生部門 努力賞受賞 入岡 美濤（附属江古田音楽教室在室 杉並区立桃井第一小学校6年生）

MUSASHINO 掲示板

「レインボウ21 サントリーホール デビューコンサート2012」に 本年も採択

サントリーホールが、エデュケーション・プログラムの一環として実施している「レインボウ21 サントリーホール デビューコンサート」。次代を担う音楽家や音楽業界を目指す学生が自ら企画し、大学の協力の下サントリーホールと連携して、プログラムの作成から舞台構成、広報活動などの全ての公演制作を行う演奏会として高い注目を集めています。毎年首都圏の音楽大学から多数の企画が出され、本年は昨年に引き続き本学と他に1大学が採用されました。

武蔵野音大プロデュースは「ファニーとクララ～輝くふたりのミューズ～」で、6月4日19:00 サントリーホール ブルーローズで開催されます。

音楽大学卒業生演奏会(桃華楽堂演奏会)

3月27日、在京の5音楽大学の代表による「音楽大学卒業生演奏会」が宮内庁の行事として皇居内の桃華楽堂で、皇后陛下ご臨席のもと開催されます。本学からは、オーボエ独奏 荒巻友利恵さん(ピアノ 大田敦子さん)が出演します。

クロイツァー賞

レオニード・クロイツァー教授の功績を記念し、日本のピアノ音楽発展のために制定された「クロイツァー賞」。今年度は竹中千絵さん(平成24年3月大学院修士課程修了)が選ばれて、7月4日19:00 津田ホールでの記念演奏会に出演します。

平成24年度4月～7月公開講座・演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学音楽学部新人演奏会～平成23年度卒業生による～	4月17日(火) 18:30 津田ホール	¥1,500(全席自由)
武蔵野音楽大学大学院修士課程在学学生によるコンサート	4月20日(金) 18:30 モーツァルトホール(江古田)	入場無料(全席自由・要入場整理券)
武蔵野音楽大学オペラ公演 W.A.モーツァルト:歌劇「魔笛」全2幕 ドイツ語上演・字幕付 指揮＝本名徹次 演出＝十川 稔	4月29日(水) 15:00 ベートーヴェンホール(江古田) 4月30日(木) 15:00 ベートーヴェンホール(江古田) 5月2日(水) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田) 5月3日(木) 15:00 ベートーヴェンホール(江古田)	A席 売切れ/B席 ¥2,500(全席指定) A席 ¥3,000/B席 ¥2,500(全席指定) A席 ¥3,000/B席 ¥2,500(全席指定) A席 ¥3,000/B席 ¥2,500(全席指定)
武蔵野音楽大学大学院修士課程新人演奏会～平成23年度修了生による～	5月14日(月) 18:30 津田ホール	¥1,500(全席自由)
ヘトヴィヒ・ビルグラム オルガン・リサイタル 曲目＝J.S.バッハ:前奏曲とフーガ イ短調 BWV543 他	5月21日(月) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
ローランド・セントバリ テューバ・コンサート&マスタークラス 共演＝ロジャー・ボボ	5月23日(水) 18:30 モーツァルトホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
グレゴリー・フェイギン(Vln.) & エレーナ・アシュケナージ(Pf.) デュオ・リサイタル 曲目＝プロコフィエフ:ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ヘ短調 Op.80、ラヴェル:ツィガース(演奏会用狂詩曲) 他	5月24日(木) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
ヘトヴィヒ・ビルグラム チェンバロ公開講座 テーマ＝バッハのイギリス組曲第3番について	5月25日(金) 18:30 モーツァルトホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
「バッハのタベ」～クルト・グントナー (Vln.) & ヘトヴィヒ・ビルグラム (Cem.) デュオ・リサイタル～ 曲目＝J.S.バッハ:6つのヴァイオリン・ソナタ	5月31日(木) 18:30 モーツァルトホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
レインボウ21 サントリーホール デビューコンサート2012 (主催:サントリーホール) 武蔵野音楽大学プロデュース 「ファニーとクララ～輝くふたりのミューズ～」	6月4日(月) 19:00 サントリーホール ブルーローズ(小ホール)	¥2,000(全席自由)
エレナ・オブラストワ メゾ・ソプラノ・リサイタル	6月8日(金) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
ニュー・ストリーム・コンサート17 ～ヴィルトゥオーソ学科演奏会1～	6月12日(火) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	入場無料(全席自由・要入場整理券)
カールマン・ベルケシュ (Cl.) 室内楽のタベ 共演＝深山尚久 (Vln.)、シャンドール・ナジ (Vla.)、クレメンス・ドル (Vlc.)、ドル恵理子 (Pf.) 曲目＝ベートーヴェン:三重奏曲 変ホ長調 Op.38 他	6月21日(水) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会 指揮＝クルト・グントナー 曲目＝プロコフィエフ:交響曲 第1番 ニ長調 Op.25「古典的交響曲」、モーツァルト:フルートとハープのための協奏曲 ハ長調 K.299 (297c) 他	6月29日(金) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田)	¥1,000(全席自由)
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会 指揮＝リチャード・K.ハンセン	7月7日(土) 14:00 熊本県立劇場 コンサートホール(熊本市) 7月8日(日) 16:00 長崎ブリックホール 大ホール(長崎市) 7月13日(金) 18:30 東京オペラシティ コンサートホール	一般 ¥1,500/小・中・高 ¥1,000(全席自由) 一般 ¥1,500/小・中・高 ¥1,000(全席自由) ¥1,500(全席指定)
武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ ◎世界の名教授によるスペシャル・コンサート ホルヘ・ルイス・プラッツ ピアノ・リサイタル	7月22日(日) 18:00 ベートーヴェンホール(江古田)	¥2,000(全席自由)
◎ピアノ音楽セミナー 講師＝レフ・ナトチェニ テーマ＝「ベートーヴェン ピアノ・ソナタの発展」－1790年代から1820年代の30年間にわたる進化の全容(作品2-1、57、111を事例として)－	7月26日(木) 18:00 モーツァルトホール(江古田)	¥1,000(全席自由)

お問合せ ●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108
※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
※チケットは武蔵野音楽大学ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> でも予約ができます。

平成24年度夏期講習会のお知らせ

平成24年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会(音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習※)を、下記のとおり実施します。※教員免許状更新講習とは異なります。

講座名	会場
大学受験講習会 ①7/28～7/31 ②8/2～8/5	江古田キャンパス
高校音楽科受験講習会 7/28～7/30	
社会人のための夏期研修講座 8/2～8/4	
免許法認定講習 7/25～8/5	入間キャンパス

※実施日程、会場が昨年と変更となっている講習会があります。詳細は要項でご確認ください。◎講習会要項は6月上旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)またはホームページ、モバイルサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)
ホームページ <http://www.musashino-music.ac.jp/> モバイルサイト <http://musaon.jp/>

平成24年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、平成24年度も教員免許状更新講習を開講します(現在認可申請中)。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域「教育事情」12時間と選択領域「教科指導」18時間、合計30時間を開講します。

講習期間	会場
①必修領域(12時間) 7/22・23の2日間	江古田 キャンパス
②選択領域(18時間) 7/24～26の3日間	

◎要項は4月上旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室(TEL.03-3992-1125)、またはホームページ、モバイルサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)

フリューゲルホルン

F.ベッソン作 1910年頃 パリ 全長41cm

フリューゲルホルンは、トランペットと同じ音域の金管楽器で、長く太い円錐管の形状を持つ。ブラスバンドや軍楽隊などで使用されるが、その深く柔らかな音色が好まれ、ソロを受け持つことも珍しくない。オーケストラでの用例も見られ、特にヴォーン・ウィリアムズの交響曲第9番では、静寂の中に浮かび上がるフリューゲルホルンの深遠なソロを聴くことが出来る。

フリューゲルホルンは「翼の角笛」という意味のドイツ語で、これは、この楽器の祖形が狩に使用されたことに由来するといわれる。18世紀のドイツでは、一団を組んで大規模な狩猟を行う際に、リーダーは半月型の楽器を吹き鳴らすことで、左右に広がったウイング(翼)のメンバーに指示を行った。このリーダーは「フリューゲルマイスター」と呼ばれ、彼の持つ楽器は「フリューゲルホルン」と呼ばれた。この楽器が現在のフリューゲルホルンに発展した。

半月型の楽器は、その後一重巻きのシンプルなラップになり、軍隊でも使用され、イギリスではビューグルと呼ばれた。1810年、イギリスのハリディがこのビューグルにキイを取り付け、キイ・ビューグルが考案



された。作曲家ブラームスの父であるヨハン・ヤーコプ・ブラームスも、一時この楽器を楽団で演奏していたという記録が残っている。その後1832年に、ドイツのザウレがキイ・ビューグルのキイをヴァルヴ・システムに替えることで、現在のフリューゲルホルンが完成した。

写真の楽器は、金管楽器製作の名門ベッソンが製作したもので、ベルには優美な彫金が施され、ジョイント部分はブドウ柄の金のプレートで装飾されている。

(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

❖ 目次 ❖

平成24年度を迎えて ①
福井直敬

ドビュッシーに見る確固たる美意識 ②
真嶋雄大

音楽の万華鏡 ⑤
歌う民族 日本人 薦田治子

卒業生インタビュー ⑥
刺激的な毎日、充実のレッスン ～新国立劇場オペラ研修所に学ぶ日々～
林よう子 日浦真矩

VOICE & VOICE ⑨
武蔵野音楽大学別科に学んで

MUSASHINO NEWS ⑩

❖ 音楽教室オペラ「ヘンゼルとグレーテル」上演

❖ タチアナ・ゼリクマン教授来学

❖ 第17回武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ

❖ 「江古田新キャンパスプロジェクト」に伴う学生の履修キャンパスについて

❖ 着任外国人教授紹介

❖ 平成24年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校
学校説明会・オープンキャンパス

❖ 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

❖ MUSASHINO 掲示板

❖ 平成24年度4月～7月公開講座・演奏会のお知らせ

❖ 平成24年度夏期講習会のお知らせ

❖ 平成24年度教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖ 発行 ❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

パルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2012年4月1日発行 通巻第101号



モバイルサイト
<http://musashino.jp/>